『ほっとたいむ通信』　第八十四号

新年あけましておめでとうございます。
今年もほっとたいむ通信で心がほっとするお話を届けさせていただきます。

「友達と給食」

ワタミの渡邉社長は恵まれない子ども達のために、カンボジアで学校建設事業を行っています。

完成した学校には多くの子ども達が通って勉強していますが、満足に食事を取ることができない子ども達が多く、勉強するどころではない状況です。

そこで、お腹を満たしてから勉強してもらおうと考えて、一時間目の前に給食を配給するようにしました。給食と言っても日本の給食とは違ってわずかなご飯にスープをかけただけのものです。それでも、お腹をすかせた子ども達はうれしそうに食べます。

渡邉さんがある学校に視察に行ったとき、給食をみんなが食べ始めても一口も食べようとしない女の子に気がつきました。みんなが食べている間、女の子はじっとほかの子ども達が食べているのを眺めています。

何人かが食べ終わって席を立ち上がる頃になると、女の子はビニール袋を取り出して、手をつけていない給食を袋の中に入れ始めました。渡邉さんが不思議に思って校長先生に理由を聞くと、

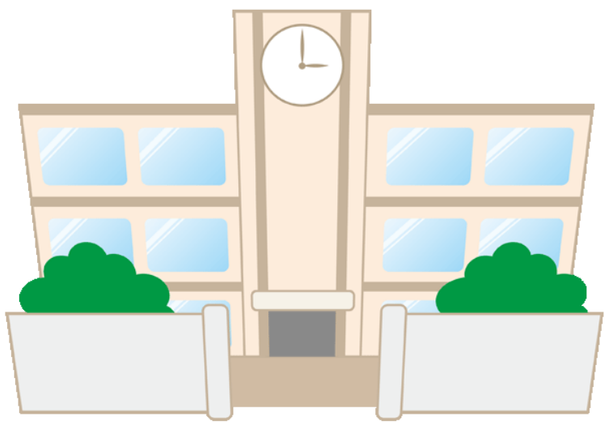
「彼女は病気で働けない母親と二人の姉妹のために、給食を家に持ち帰って一緒に食べます。だから一時間目は欠席です」

と答えました。渡邉さんは自分もお腹をすかしているのに、家族のところに持って帰る優しい子がいることに感動していましたが、もっと驚いたのは女の子の周りに座っていた子ども達の行動でした。女の子の近くに座っていた子ども達はなぜかみんな、給食を全部食べずに残していました。

女の子が自分の分をビニール袋に入れ終わると、ほかの子も残した分を女の子のビニール袋に入れてあげていました。

「一日一食しか食事を取れない子ども達なのに……」

渡邉さんはこの光景を見て、「この子ども達を絶対に助ける」と強く思ったそうです。



自分が恵まれた状況にいて、人を助けることは誰でもできるでしょう。本当の強さと優しさを試されるのは、自分が困難な状況のときに、どれだけさらに困っている人のために力を貸すことができるかです。逆境が人を試すと思います。

自分が困難な状況になったとき、カンボジアの子ども達の強さを思い出してがんばりたいですね。

「小さな幸せに気づく24の物語」より抜粋

株式会社三悦
代表取締役　樋田　浩三

令和七年一月